

Cisco TelePresence Touch 12 のインストール

2012 年 2 月 17 日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco TelePresence Touch 12 のインストール
© 2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2011–2012, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.

はじめに v

表記法 v

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

CHAPTER 1**Cisco TelePresence System の COP ファイルとロード ファイルについて 1-1**

COP ファイルについて 1-1

Unified CM での CTT 12 と Cisco Unified IP Phone の違い 1-2

COP ファイルの命名規則 1-3

COP ファイルの内容 1-3

バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード 1-4

CHAPTER 2**新製品に付属の Cisco TelePresence Touch 12 のインストール 2-1**

Touch デバイスのディレクトリの有効化 2-1

Touch デバイスのシステムへの接続 2-3

CHAPTER 3**Cisco Unified IP Phone から Cisco TelePresence Touch 12 へのアップグレード 3-1**

システムで使用されるコーデックのタイプの確認 3-1

キットおよび部品リスト 3-2

Touch デバイスのディレクトリの有効化 3-3

バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード 3-5

Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン 1.7.4 以上を実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード 3-15

Cisco TelePresence Touch 12 のシステムへの接続 3-21

Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している CTS-500-32 システムに対する特殊な制限 3-23

CHAPTER 4**ソフトウェア インストールの問題のトラブルシューティング 4-1**

デバイスのログ ファイルの取得 4-1

インストールおよびアップグレードの問題のトラブルシューティング 4-1



はじめに

このマニュアルでは、Cisco TelePresence Touch 12（Cisco TelePresence Touch）を接続して設定するために実行する手順について説明します。

表記法

情報を伝え、特別な配慮を要する条件についてユーザの注意を喚起するために、このマニュアルでは次の表記法を使用しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント

役立つヒントです。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 1

Cisco TelePresence System の COP ファイルとロード ファイルについて

この項では、COP ファイルとその使用方法について説明します。この項では、次のトピックを扱います。

- 「COP ファイルについて」 (P.1-1)
- 「Unified CM での CTT 12 と Cisco Unified IP Phone の違い」 (P.1-2)
- 「COP ファイルの命名規則」 (P.1-3)
- 「COP ファイルの内容」 (P.1-3)
- 「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード」 (P.1-4)

COP ファイルについて

Cisco TelePresence Touch 12 (CTT 12) を使用するには、まず Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) に Cisco Options Package (COP) ファイルをインストールします。COP ファイルは、コーデック イメージ ファイルおよび制御デバイス (CTT 12 や Cisco Unified IP Phone など) イメージ ファイルと、COP ファイルの内容の一覧を示すロード ファイルを含む zip ファイルです。詳細については、「COP ファイルの内容」 (P.1-3) を参照してください。

COP ファイルは、システムがコール制御に CTT 12 と Cisco Unified IP Phone のどちらを使用しているかにかかわらず、リリース 1.8.0 以上のすべてのリリースのためのデフォルトのファイル配信方法です。

CTT 12 は Cisco TelePresence System ソフトウェア リリース 1.8.0 よりも前のどのリリースでもサポートされていませんが、リリース 1.7.4 または 1.7.5 を実行しているシステムでは、COP ファイルを使用してソフトウェアをアップグレードおよびインストールできます。Cisco TelePresence System ソフトウェア リリース 1.8.0 以上を実行しているシステムでは、ソフトウェアのアップグレードおよびインストールに、必ず COP ファイルを使用する必要があります。1.7.4 よりも前のソフトウェアを実行しているシステムに関する COP ファイル固有の情報については、「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード」 (P.1-4) を参照してください。

COP ファイルを使用してシステムをアップグレードした後は、その COP ファイルを使用して、それ以降のすべてのアップグレードを実行します。アップグレードは、Unified CM でファイル名を指定して実行します。このとき、ファイル拡張子はすべて省略します。特定のファイル拡張子を持つコーデック イメージ ファイルを指定したり、COP ファイルに含まれていないファイルを指定したりすると、CTT 12 によってバージョンの不一致が報告されることがあります。

COP ファイルは、次の URL にある、使用している製品に対するシスコのサポート サイトの「Download」セクションで入手できます。

<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>

Unified CM での CTT 12 と Cisco Unified IP Phone の違い

CTT 12 は、Unified CM に登録しません。CTT 12 の設定方法は、コール制御に Cisco Unified IP Phone を使用している Cisco TelePresence システムの設定とは異なります（このシステムの場合は、Unified CM でコーデックと Cisco Unified IP Phone の両方を登録します）。CTT 12 デバイスを使用するシステムでは、Unified CM でコーデックのみを登録します。

システムをアップグレードするには、Unified CM で COP ファイルの名前をファイルタイプ（拡張子）を付けずに指定します。この名前を [Unified CM Device Defaults Load Information] フィールド（このファイルと同じタイプのすべてのデバイスに対して指定する場合）か、または [Device Phone Load Name] フィールド（このファイルを 1 台のデバイスに対して指定する場合）のどちらかで指定します。



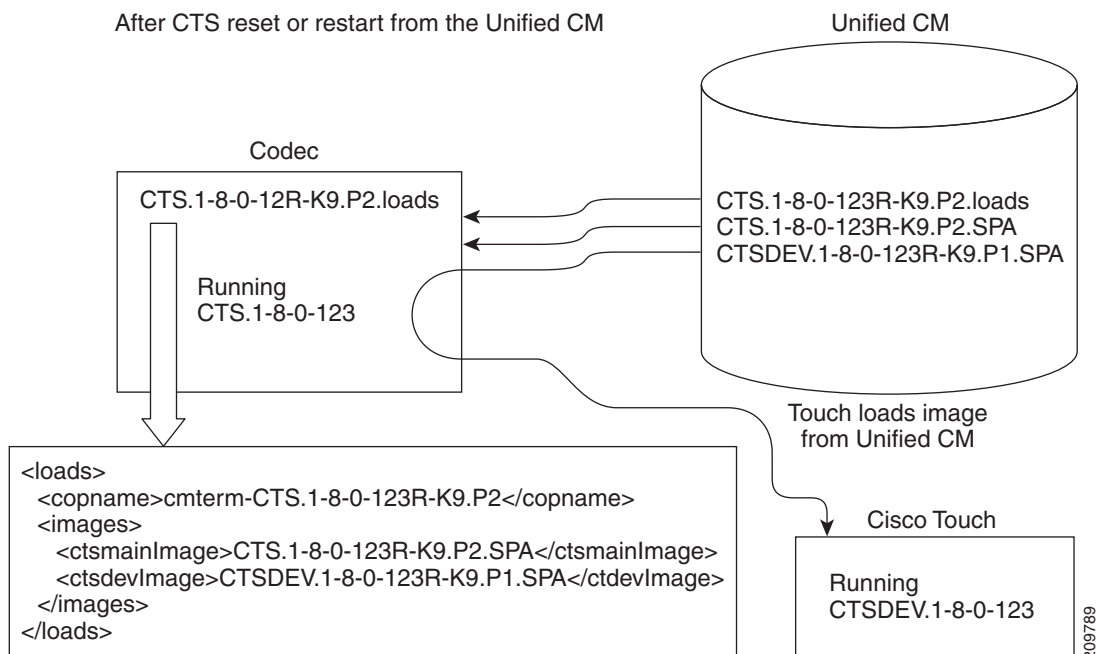
(注)

システムが 1.7.4 よりも前のバージョンの CTS を実行している場合は、最初に .sbn または .SPA 拡張子を持つファイル名を指定し、次に拡張子を付けずにファイル名を指定します。手順の概要については「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード」(P.1-4) を、手順の詳細については「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード」(P.3-5) を参照してください。

Unified CM は、COP ファイルからコーデックファイルおよび CTT 12 ファイルを自動的に抽出し、それらを Cisco TelePresence システムに適用します。

図 1-1 は、コーデックと CTT 12 が Unified CM から COP ファイル内の各ファイルを取得する方法を示しています。この例は、CTS-CODEC-SING-G1 または CTS-CODEC-PRI-G2R コーデックを使用するシステムの COP ファイルを示しています。CTS-CODEC-PRIM または CTS-CODEC-PRI-G2 コーデックを使用するシステムの場合、プロセスは同じですが、コーデックファイル名が異なります。詳細については、「COP ファイルの命名規則」(P.1-3) を参照してください。

図 1-1 コーデックと CTT 12 の COP ファイル抽出プロセス



詳細については、「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード」(P.1-4) および 「Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン 1.7.4 以上を実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード」(P.3-15) を参照してください。

COP ファイルの命名規則

COP ファイルでは、次の命名規則が使用されます。

CTS.*r-r-r-bbbR*-K9.Pv.cop.sgn

ここで、

r-r-r は Cisco TelePresence System (CTS) のソフトウェア リリース、

bbb はビルド名、

v はファイル バージョンです。

Pv 変数は、COP ファイルの内容や、システムで使用されるコーデックによって異なります。図 1-2 の例では、COP ファイル、コーデック イメージ ファイル、および CTT 12 ファイルのバージョンは P1 です。図 1-3 の例では、COP ファイルおよびコーデック ファイルのバージョンが P2 であるのに対して、CTT 12 ファイルのバージョンは P1 です。

COP ファイルの内容

COP ファイルには、次のファイル タイプのいずれかを含む、複数のファイルを含めることができます。

- コーデック イメージ ファイル
- CTT 12 イメージ ファイル
- Midlet ファイル

CTT 12 での COP ファイルの使用方法を理解するために、COP ファイルにロード ファイル、コーデック イメージ ファイル、CTT 12 イメージ ファイルの 3 つのファイルが含まれている場合を考えてみましょう。

ロード ファイルには、特定のコーデック イメージ ファイルおよび CTT 12 イメージ ファイルのファイル名の一覧が記載されています。図 1-2 および図 1-3 は、ロード ファイルの例を示しています。

図 1-2 **ロード ファイルの例 : CTS-CODEC-PRIM または CTS-CODEC-PRI-G2 コーデックを使用するシステム**

```
<loads>
  <copname>cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P1</copname>
  <images>
    <ctsmainImage>CTS.1-8-0-123R-K9.P1.sbn</ctsmainImage>
    <ctsdevImage>CTSDEV.1-8-0-123R-K9.P1.SPA</ctsdevImage>
  </images>
</loads>
```

図 1-3 **ロード ファイルの例 : CTS-CODEC-SING-G1 または CTS-CODEC-PRI-G2R コーデックを使用するシステム**

```
<loads>
  <copname>cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P2</copname>
  <images>
    <ctsmainImage>CTS.1-8-0-123R-K9.P2.SPA</ctsmainImage>
```

```
<ctsdevImage>CTSDEV.1-8-0-123R-K9.P1.SPA</ctsdevImage>
</images>
</loads>
```

ロード ファイルには、次のエントリが含まれています。

- <copname> : COP ファイル名。



(注) COP ファイル名を指定する場合は、ファイル名の前にある **cmterm-** を削除してください。Unified CM でデバイスを設定するときの COP ファイル名の具体的な例については、[第 3 章「Cisco Unified IP Phone から Cisco TelePresence Touch 12 へのアップグレード」](#)を参照してください。

- <ctsmainImage> : コーデック イメージ ファイル名。[図 1-2](#) と [図 1-3](#) の例ではファイル タイプが異なることに注意してください。ファイル タイプは、システムが使用するコーデックのタイプに基づいています。
- <ctsdevImage> : CTT 12 イメージ ファイル名。

バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード

CTS ソフトウェア バージョン 1.7.4 以前を実行しているシステムでは、ロード ファイルを処理できないため、ファイルが存在する場合でも、「file not found」エラーが報告されます。システムをアップグレードするには、次の手順を実行します。



(注) この手順の [ステップ 9](#) まで、CTT 12 をシステムに物理的に接続しないでください。



ヒント

システムがコール制御に Cisco Unified IP Phone を使用している場合でも、この手順を使用して ([ステップ 9](#) はスキップして) システムをアップグレードできます。

- ステップ 1** Unified CM サーバに COP ファイルをインストールします。
この操作によって、COP ファイルからコーデック イメージ ファイルおよび CTT 12 イメージ ファイルが抽出され、Unified CM TFTP ディレクトリ内に保存されます。
- ステップ 2** TFTP サーバを再起動します。
- ステップ 3** .sbn または .SPA のどちらかのファイル タイプを含む完全なファイル名を次のいずれかの場所に入力することによって、コーデックをアップグレードします。
 - 指定されたタイプのすべてのデバイスに対してこのファイルを指定するには、[Unified CM Device Defaults Load Information] フィールドにファイル名を入力します。
 - 1 台のデバイスに対してこのファイルを指定するには、[Device Phone Load Name] フィールドにファイル名を入力します。
- ステップ 4** Unified CM で変更内容を保存して適用します。これにより、コーデックがリブートされ、システムがリリース 1.8.0 以上にアップグレードされます。



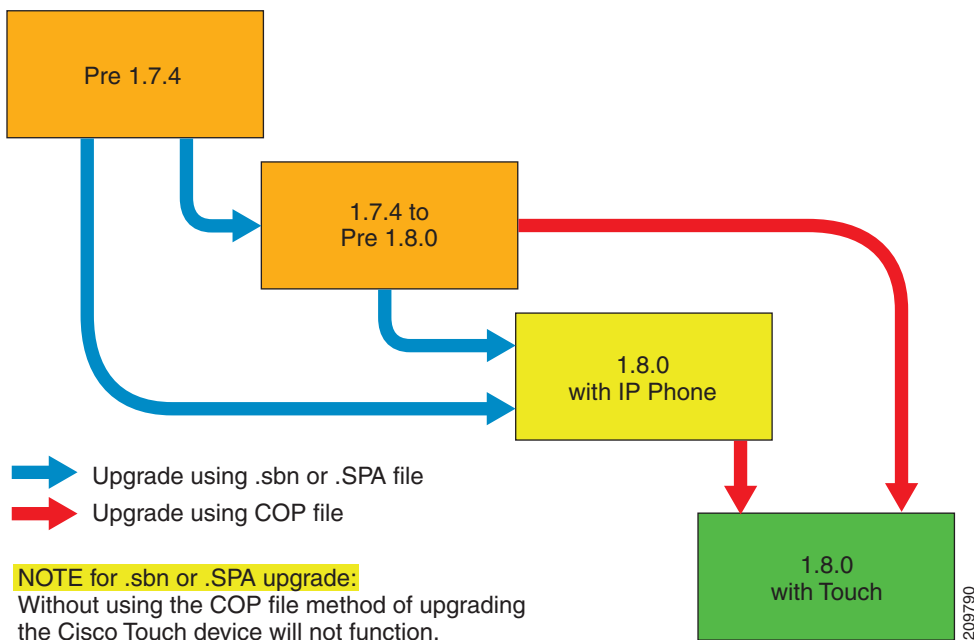
(注) Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している Cisco TelePresence System 500-32 システムの場合は、システムを 1.8.0 にアップグレードする前に、まずシステムをバージョン 1.7.4 にアップグレードする必要があります。詳細については、「Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している CTS-500-32 システムに対する特殊な制限」(P.3-23) を参照してください。

- ステップ 5 CTT 12 をシステムに接続し、ファイル拡張子を付けずに COP ファイルを指定します。
- ステップ 6 Unified CM で変更内容を保存して適用します。これにより、コーデックがリブートされ、CTT 12 が正しいソフトウェア リリースにアップグレードされます。
- ステップ 7 [Unified CM Device Defaults Load Information] フィールド (このファイルを同じタイプのすべてのデバイスに対して指定する場合) か、または [Device Phone Load Name] フィールド (このファイルを 1 台のデバイスに対して指定する場合) のどちらかで、ロード ファイル名 (ファイル拡張子なしの COP ファイルの名前) を指定して、コーデックをアップグレードします。
- ステップ 8 Unified CM で変更内容を保存して適用します。これにより、コーデックが再起動され、システムで CTT 12 をサポートできるようになります。
- ステップ 9 CTT 12 をシステムに接続します。

図 1-4 は、Cisco TelePresence システムのソフトウェア バージョンに応じて使用可能なアップグレードパスを示しています。

図 1-4

アップグレードパス



■ バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード



CHAPTER 2

新製品に付属の Cisco TelePresence Touch 12 のインストール

この章では、新しいシステムに Touch デバイスを設定して設置するために実行する手順について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「Touch デバイスのディレクトリの有効化」 (P.2-1)
- 「Touch デバイスのシステムへの接続」 (P.2-3)

Touch デバイスのディレクトリの有効化

Touch デバイスのディレクトリ サービスを使用するには、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) で次の変更を行う必要があります。

- Cisco User Data Services が有効になっていることを確認します。
8.5.1 と 8.6.1 の間のリリース (リリース 8.5.1 を含む) では、User Data Services はデフォルトで有効になっています。リリース 8.6.1 では、このサービスはデフォルトで無効になっています。



(注) Touch デバイスには、バージョン 8.5.1 以上の Unified CM が必要です。

- [User Search Limit] を 500 に設定します。

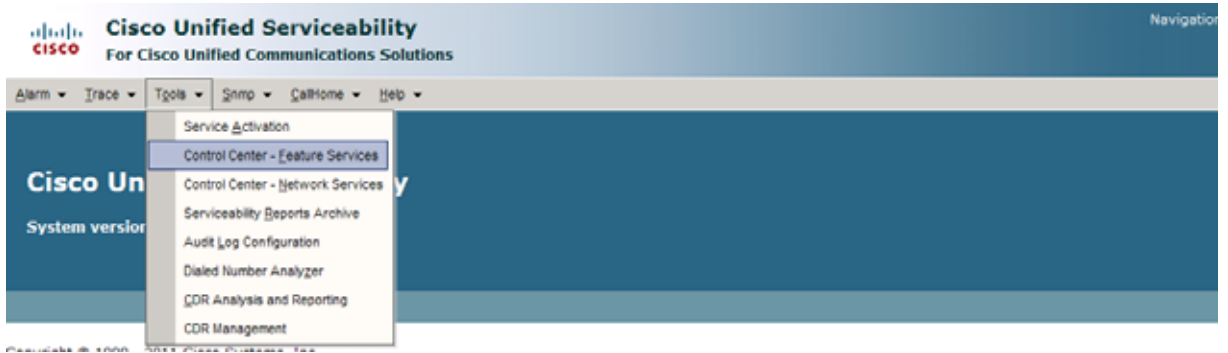
これらの変更を行わない場合、Touch デバイスは引き続き動作しますが、ディレクトリにはアクセスできません。

Touch デバイスのディレクトリを有効にするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 次の手順を実行して、Cisco User Data Services を有効にします。

- a. Unified CM GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified Serviceability] を選択し、[Go] をクリックします。
[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウが表示されます。

図 2-1 [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウ



- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

図 2-2 [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウ



- c. ドロップダウン リストから Unified CM サーバを選択し、[Go] をクリックします。
 d. [CM Services] 領域で、[Cisco User Data Services] オプション ボタンをクリックします。

図 2-3 Cisco User Data Services

CM Services	
	Service Name
<input type="radio"/>	Cisco CallManager
<input type="radio"/>	Cisco Messaging Interface
<input type="radio"/>	Cisco Unified Mobile Voice Access Service
<input type="radio"/>	Cisco IP Voice Media Streaming App
<input type="radio"/>	Cisco CTIManager
<input type="radio"/>	Cisco Extension Mobility
<input type="radio"/>	Cisco DHCP Monitor Service
<input checked="" type="radio"/>	Cisco User Data Services
<input type="radio"/>	Cisco Dialed Number Analyzer Server
<input type="radio"/>	Cisco Dialed Number Analyzer
<input type="radio"/>	Cisco Tftp

- e. [Restart] をクリックし、選択を保存してサービスを開始します。

ステップ 2 次の操作を実行して、[Search User Limit] を 500 に設定します。

- a. Unified CM GUI にログインします。
 [Cisco Unified CM Administration] ウィンドウが表示されます。
 b. [System] > [Enterprise Parameters] の順に選択します。

図 2-4 [Cisco Unified CM Administration] ウィンドウ



- c. [User Search Limit] フィールドに **500** と入力します。



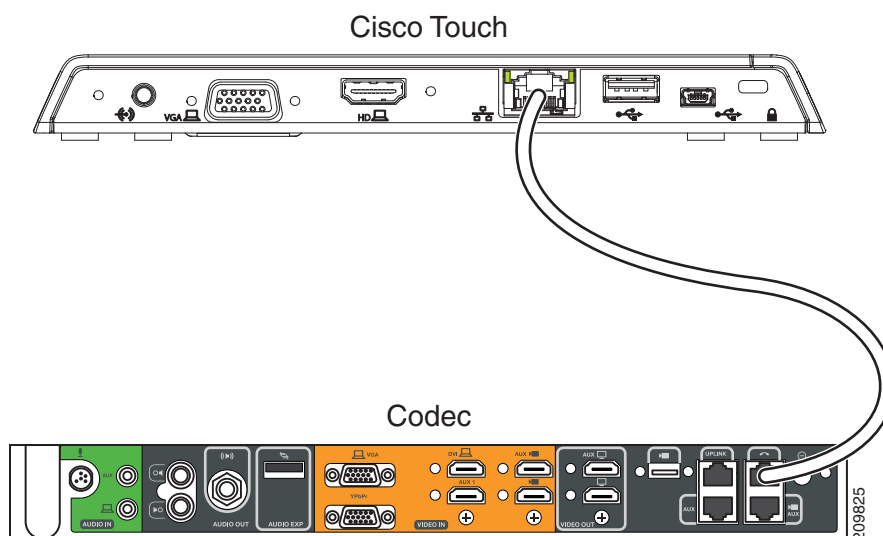
(注) このフィールドは [User Search Parameters] 領域にあります。

- d. [Save] をクリックして変更を保存します。
 e. [Apply Config] をクリックして、変更を Cisco Touch デバイスに適用します。

Touch デバイスのシステムへの接続

図 2-5 にある図を使用して、Touch デバイスをシステムに接続します。

図 2-5 新しいシステムの接続図



Touch デバイス用のイーサネット ケーブルはシステムに付属しています。



(注)

Touch デバイスを接続した後、Touch ディスプレイの左下に丸で囲まれた一連の数字が表示されます。これらの数字は、デバイスの起動状況に従ってチェック マークに変化します。丸で囲まれた数字がチェック マークに変化しなかった場合や、Touch デバイスをコーデックに登録できなかったことを示すメッセージが Touch デバイス上に表示された場合は、Touch デバイスを切り離し、5 分待ってから再接続してください。



CHAPTER 3

Cisco Unified IP Phone から Cisco TelePresence Touch 12 へのアップ グレード

次の章では、システムを Cisco Unified IP Phone から Cisco TelePresence Touch 12 にアップグレードするために実行する作業について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「システムで使用されるコーデックのタイプの確認」(P.3-1)
- 「キットおよび部品リスト」(P.3-2)
- 「Touch デバイスのディレクトリの有効化」(P.3-3)
- 「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード」(P.3-5)
- 「Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン 1.7.4 以上を実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード」(P.3-15)
- 「Cisco TelePresence Touch 12 のシステムへの接続」(P.3-21)
- 「Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している CTS-500-32 システムに対する特殊な制限」(P.3-23)



注意

本製品で使用されるディスプレイには水銀が含まれています。各地域、都道府県、政府の法律に従って廃棄してください。

システムで使用されるコーデックのタイプの確認

次のインストール手順では、拡張子を付けずに COP ファイル名を指定する前に、Unified CM で .sbn または .SPA ファイルのロードを指定します。このファイル拡張子は、システムで使用しているコーデックのタイプによって異なります。指定するファイルのタイプを確認するには、次のガイドを使用します。

- コーデックの外観が図 3-1 のコーデックと同じである場合は、.sbn ファイルを使用します。このコーデックを使用するのは、次のシステムです。
 - Cisco TelePresence System 500-37 (PID : CTS-500-37)
 - Cisco TelePresence System 1000 (PID : CTS-1000)
 - Cisco TelePresence System 1100 (PID : CTS-1100)
 - Cisco TelePresence System 1300-65 (PID : CTS-1300)

■ キットおよび部品リスト

- Cisco TelePresence System 3000 (PID : CTS-3000)
- Cisco TelePresence System 3010 (PID : CTS-3010)
- Cisco TelePresence System 3200 (PID : CTS-3200)
- Cisco TelePresence System 3210 (PID : CTS-3210)
- コーデックの外観が図 3-2 のコーデックと同じである場合は、.SPA ファイルを使用します。このコーデックを使用するのは、次のシステムです。
 - Cisco TelePresence System 500-32 (PID : CTS-500-32)
 - Cisco TelePresence System 1300-47 (PID : CTS-1300-47)

図 3-1 コーデック CTS-CODEC-PRI-G2 または CTS-CODEC-PRIM

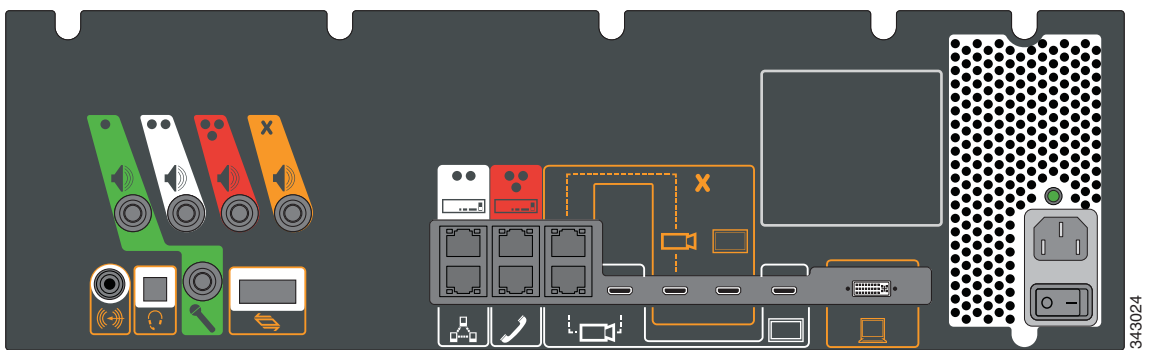
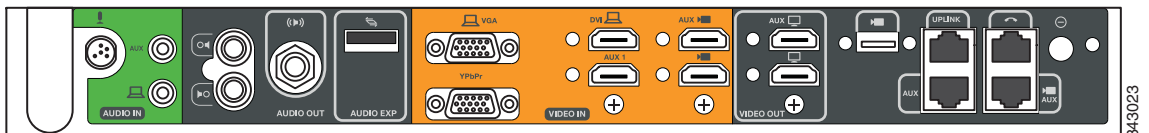


図 3-2 コーデック CTS-CODEC-SING-G1 または CTS-CODEC-PRI-G2R



キットおよび部品リスト

システムを Cisco Unified IP Phone から Cisco Touch 12 (CTT 12) にアップグレードするには、次のキットを注文します。

- 次のシステムでは、キット番号 **CTS-CTRL-DV12-A=** を注文します。
 - Cisco TelePresence System 500-32 (PID : CTS-500-32)
 - Cisco TelePresence System 1300-47 (PID : CTS-1300-47)
 これには、CTT 12 デバイス (部品番号 CTS-CTRL-DV12) が含まれます。
- 次のシステムでは、キット番号 **CTS-CTRL-DV12-B=** を注文します。
 - Cisco TelePresence System 1000 (PID : CTS-1000)
 - Cisco TelePresence System 1100 (PID : CTS-1100)
 - Cisco TelePresence System 1300-65 (PID : CTS-1300)
 - Cisco TelePresence System 3000 (PID : CTS-3000)
 - Cisco TelePresence System 3010 (PID : CTS-3010)

- Cisco TelePresence System 3200 (PID : CTS-3200)
- Cisco TelePresence System 3210 (PID : CTS-3210)

CTS-CTRL-DV12-B= には、次の部品が含まれます。

- CTS-CTRL-DV12 : CTT 12 デバイス
- CTS-PWR-PDU : 配電ユニット
- AIR-PWRINJ4 : CTT 12 のパワー インジェクタ
- CTS-JUMPER-CORD : パワー インジェクタをシステムの配電ユニット (PDU) に接続するコード。コードの PDU 側の端は、IEC 60320 C19 コネクタを使用して PDU に接続します。

- Cisco TelePresence System 500-37 (PID : CTS-500-37) では、キット番号 **CTS-CTRL-DV12-C=** を注文します。

CTS-CTRL-DV12-C= には、CTS-CTRL-DV12=B と同じ部品が含まれています。ただし、CTS-JUMPER-CORD は含まれず、代わりに国ごとに特有の電源コードが含まれています。Cisco TelePresence System 500-37 には PDU が付属していないため、このように変更されています。

Touch デバイスのディレクトリの有効化

Touch デバイスのディレクトリ サービスを使用するには、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) で次の変更を行う必要があります。

- Cisco User Data Services が有効になっていることを確認します。

8.5.1 と 8.6.1 の間のリリース (リリース 8.5.1 を含む) では、User Data Services はデフォルトで有効になっています。リリース 8.6.1 では、このサービスはデフォルトで無効になっています。



(注) Touch デバイスには、バージョン 8.5.1 以上の Unified CM が必要です。

- [User Search Limit] を 500 に設定します。

これらの変更を行わない場合、Touch デバイスは引き続き動作しますが、ディレクトリにはアクセスできません。

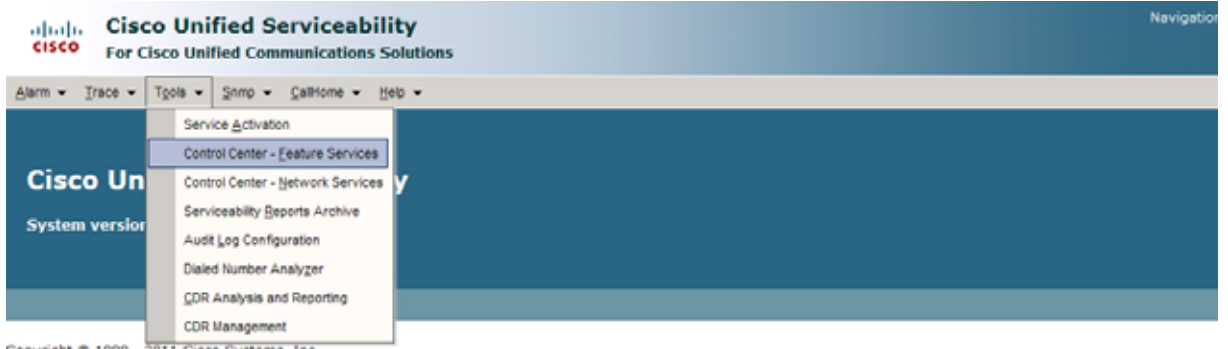
Touch デバイスのディレクトリを有効にするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 次の手順を実行して、Cisco User Data Services を有効にします。

- a. Unified CM GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified Serviceability] を選択し、[Go] をクリックします。

[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウが表示されます。

図 3-3 [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウ



- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。
- c. ドロップダウン リストから Unified CM サーバを選択し、[Go] をクリックします。
- d. [CM Services] 領域で、[Cisco User Data Services] オプション ボタンをクリックします。

図 3-4 Cisco User Data Services

CM Services	
	Service Name
<input type="radio"/>	Cisco CallManager
<input type="radio"/>	Cisco Messaging Interface
<input type="radio"/>	Cisco Unified Mobile Voice Access Service
<input type="radio"/>	Cisco IP Voice Media Streaming App
<input type="radio"/>	Cisco CTIManager
<input type="radio"/>	Cisco Extension Mobility
<input type="radio"/>	Cisco DHCP Monitor Service
<input checked="" type="radio"/>	Cisco User Data Services
<input type="radio"/>	Cisco Dialed Number Analyzer Server
<input type="radio"/>	Cisco Dialed Number Analyzer
<input type="radio"/>	Cisco Tftp

- e. [Restart] をクリックし、選択を保存してサービスを開始します。

ステップ 2 次の操作を実行して、[Search User Limit] を 500 に設定します。

- a. Unified CM GUI にログインします。
[Cisco Unified CM Administration] ウィンドウが表示されます。
- b. [System] > [Enterprise Parameters] の順に選択します。

図 3-5 [Cisco Unified CM Administration] ウィンドウ



- c. [User Search Limit] フィールドに **500** と入力します。



(注) このフィールドは [User Search Parameters] 領域にあります。

- d. [Save] をクリックして変更を保存します。
 e. [Apply Config] をクリックして、変更を Cisco Touch デバイスに適用します。

バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード

Unified CM に .sbn または .SPA ファイルと COP ファイルをロードし、バージョン 1.7.4 よりも前の CTS ソフトウェアを実行しているシステムのコーデックおよび CTT 12 ソフトウェアをアップグレードするには、次の手順を実行します。

実行する手順の概略については、「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムのアップグレード」(P.1-4) を参照してください。



(注) ソフトウェアアップグレード手順を完了するまで、CTT 12 をシステムに物理的に接続しないでください。



(注) 一部の Cisco TelePresence 500-32 システムおよび一部の交換用コーデックには、Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 が事前にロードされています。システムにこのソフトウェアがロードされている場合は、「Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している CTS-500-32 システムに対する特殊な制限」(P.3-23) に示されている手順を実行してください。

- ステップ 1** COP ファイルを Unified CM からアクセス可能なセキュア ファイル転送プロトコル (SFTP) サーバにコピーします。
- ステップ 2** Unified CM の管理 GUI にログインします。
- ステップ 3** GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified OS Administration] を選択します。
- [Cisco Unified Operating System Administration] 画面が表示されます。



(注) ユーザ ID とパスワードを入力するよう求められた場合は入力します。

- ステップ 4** [Software Upgrades] > [Install/Upgrade] の順に選択します。

図 3-6 [Cisco Unified Operating System Administration] 画面



ステップ 5 [Software Location] 領域で、各フィールドに次の情報を指定します。

- [Source] ドロップダウンリストで、[Remote Filesystem] を選択します。
- [Directory] フィールドと [Server] フィールドに、SFTP サーバ上の COP ファイルの場所を入力します。
- [User Name] フィールドと [User Password] フィールドに、SFTP サーバにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
- [Transfer Protocol] ドロップダウンリストで、[SFTP] を選択します。

図 3-7 SFTP サーバとファイルの場所の指定

ステップ 6 [Next] をクリックします。

Unified CM が SFTP サーバにアクセスします。[Software Location] 領域に、指定したディレクトリ内で Unified CM が見つけた COP ファイルの一覧が示されます。

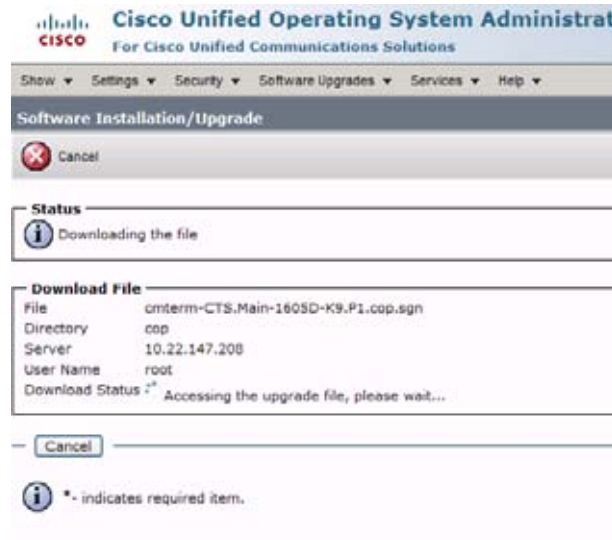
ステップ 7 [Options/Upgrades] ドロップダウンリスト内の使用可能なファイル名から、インストールする COP ファイルを選択します。

図 3-8 COP ファイルの指定

ステップ 8 [Next] をクリックします。

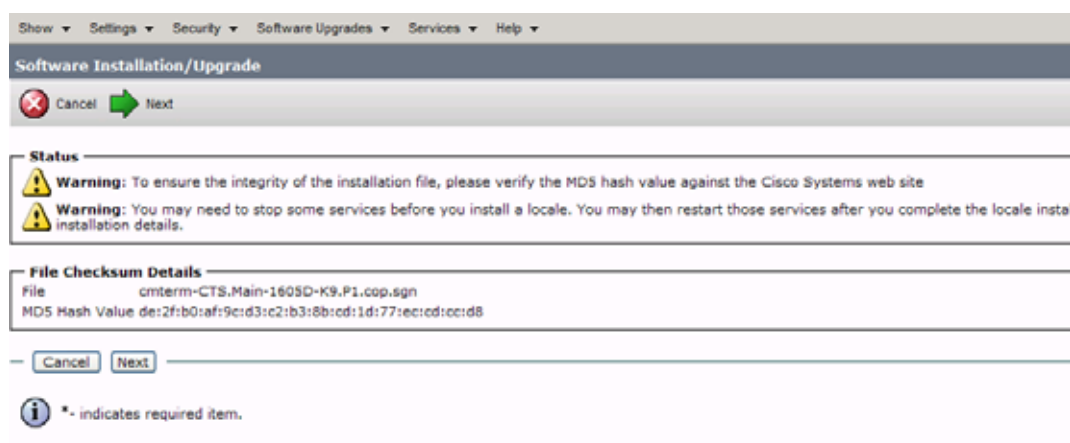
Unified CM GUI に、インストールされている COP ファイルが示されます。

図 3-9 COP ファイルのインストール



- ステップ 9** インストールが完了したら、次の手順を実行してファイルの妥当性を確認します。
- [File Checksum Details] 領域の情報をメモしておきます。この値は図 3-10 のとおりです。
 - SFTP サーバにログインし、次のコマンドを入力します。
 - `md5sum filename.cop.sgn`
ここで、
`filename` は SFTP サーバ上の COP ファイルのファイル名です。
 - `md5sum` コマンドの結果として表示されるチェックサム値をメモしておきます。
 - この領域に表示される [MD5 Hash Value] とサーバ上の COP ファイル内にある MD5 チェックサム値を比較し、これらが一致するかチェックしてこのファイルが壊れていないことを確認します。
 - 値が一致する場合は、次の手順に進みます。値が一致しない場合は、ファイルのインストールを再試行します。

図 3-10 [File Checksum Details] 領域

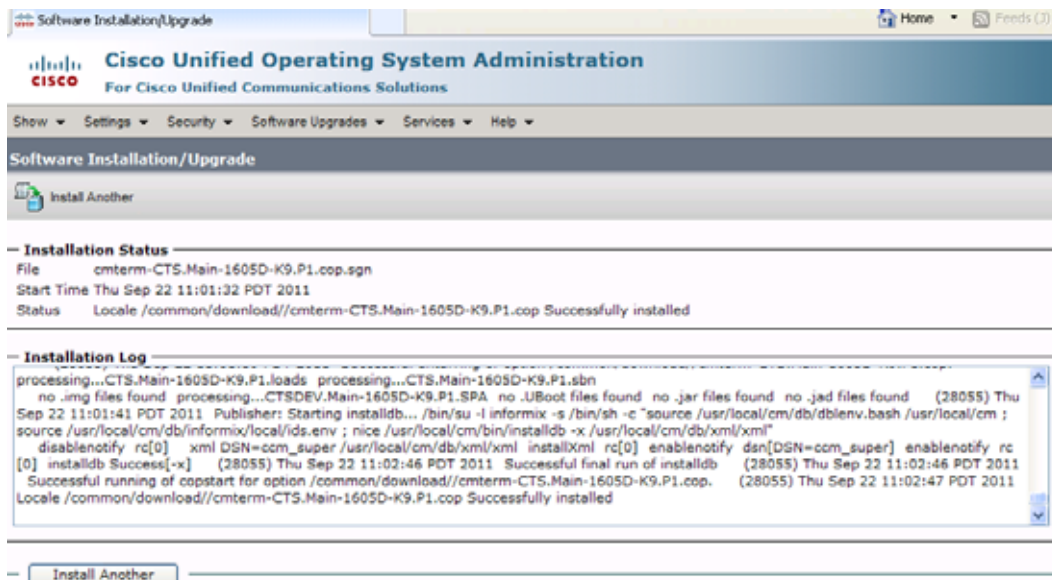


ステップ 10 [Next] をクリックしてインストールを開始します。

インストール ログにインストールの進行状況が表示されます。

.loads、コーデック、および CTT 12 ファイルが抽出された後、インターフェイスによって [Installation Status] 領域に [Complete] ステータスが表示されます。

図 3-11 [Installation Status] 領域



ステップ 11 GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified Serviceability] を選択し、[Go] をクリックします。

[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウが表示されます。

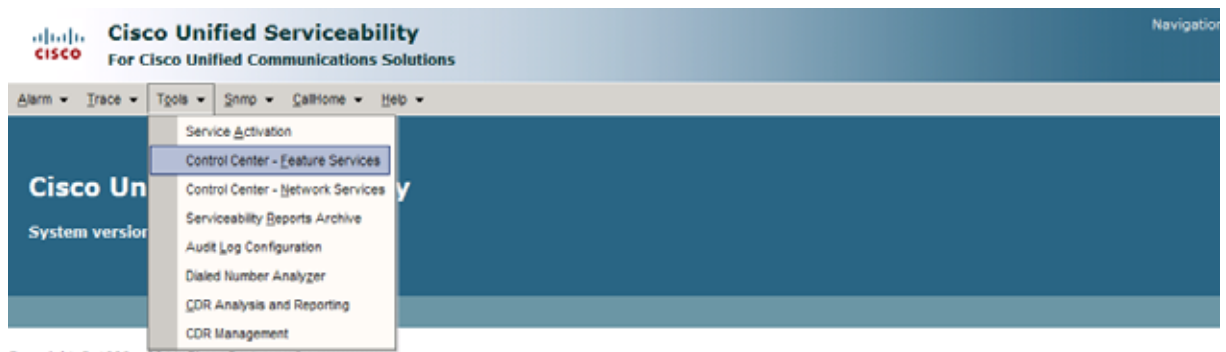


(注) ユーザ ID とパスワードを入力するよう求められた場合は入力します。

ステップ 12 次の手順を実行して、TFTP サーバを再起動します。

a. [Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

図 3-12 [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウ



b. 表示されるドロップダウン リストから該当する TFTP サーバを選択し、[Go] をクリックします。

- c. [CM Services] 領域で、[Cisco Tftp] オプション ボタンをクリックします。
- d. [Restart] ボタン (ページ一番下にある [Restart] ボタンか、または図 3-13 の赤い丸で囲んだボタンのどちらか) をクリックします。

図 3-13 [Feature Services] ページ内の [Restart] ボタン



ステップ 13 GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified CM Administration] を選択し、[Go] をクリックします。

[Cisco Unified CM Administration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 指定したタイプのすべてのデバイスにこのソフトウェアを適用するには、次の手順を実行します。



(注) このソフトウェアを (デフォルトとして適用するのではなく) デバイスごとにロードするには、[ステップ 15](#) に進みます。

- a. [Device] > [Device Settings] > [Device Defaults] の順に選択します。
- b. デフォルトのコーデック イメージを適用するシステムを見つけます。
- c. 次の手順を実行して、1.8.0 コーデック イメージ ファイルを、指定したタイプのすべてのシステムに対するデフォルトのイメージ ファイルとして適用します。
 1. [Load Information] フィールドに COP ファイルの名前を入力した後、次の変更を行います。
 - システムで図 3-1 に示されているコーデックを使用する場合は、.sbn のファイル タイプを追加します。

図 3-14 の例では、管理者はすべての Cisco TelePresence 1100 システムに対してデフォルトのコーデック ファイル イメージ CTS.1-8-0-123R-K9.P1.sbn を指定しています。元の COP ファイル名は cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P1 でした。

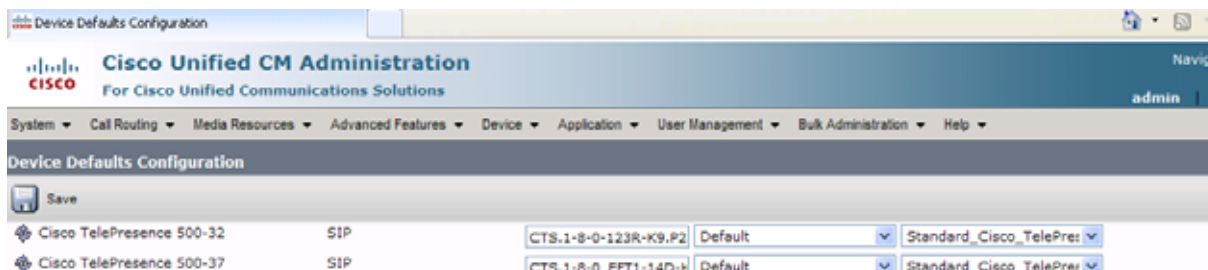
図 3-14 指定されたタイプのすべてのシステムに対するデフォルトの .sbn ファイル イメージの指定



- システムが図 3-2 に示されているコーデックを使用する場合は、ファイル タイプ .SPA を追加します。

図 3-15 の例では、管理者はすべての Cisco TelePresence 500-32 システムに対してデフォルトのコーデック ファイルイメージ CTS.1-8-0-123R-K9.P2.SPA を指定しています。元の COP ファイル名は cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P2 でした。

図 3-15 指定されたタイプのすべてのシステムに対するデフォルトの .SPA ファイル イメージの指定



2. [Save] をクリックして変更を保存します。

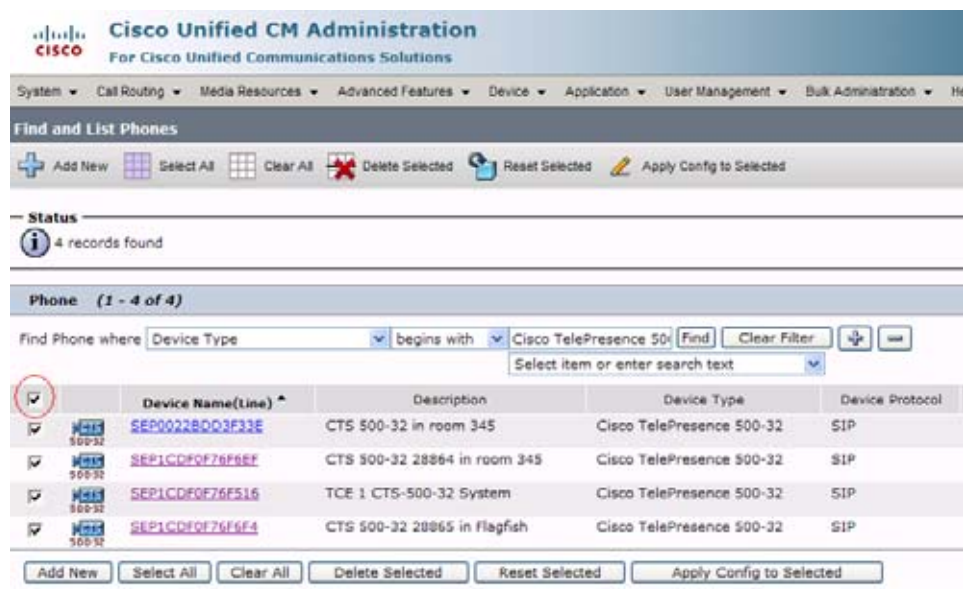
d. [Device] > [Phone] の順に選択します。

e. 次の手順を実行して、新しいコーデック イメージ ファイルを適用するデバイス タイプを検索してアクセスします。

1. [Find Phone Where] 領域のドロップダウン リストで、[Device Type] および [begins with] を選択します。
2. エンドポイントのデバイス タイプ（たとえば、[Cisco TelePresence 500-32]）を入力します。
3. [Find] をクリックします。

結果の画面の例は図 3-16 のとおりです。

図 3-16 デバイス タイプの検索後の結果の画面



4. ページの左側にあるチェックボックスを選択して、すべてのデバイスを選択します。

図 3-16 では、このチェックボックスが赤い丸で囲まれています。

5. 選択したすべてのデバイスにこの設定を適用するには、[Apply Config to Selected] をクリックします。

f. ステップ 16 に進みます。

ステップ 15 このソフトウェアを特定のデバイスに対してロードするには、次の手順を実行します。

a. [Device] > [Phone] の順に選択します。

b. 次の手順を実行して、デバイスを検索してアクセスします。

1. ドロップダウンの選択肢を使用して有効な検索条件を指定するか、またはフィールドを空白のままにしてすべてのデバイスを検索します。

2. [Find] をクリックします。

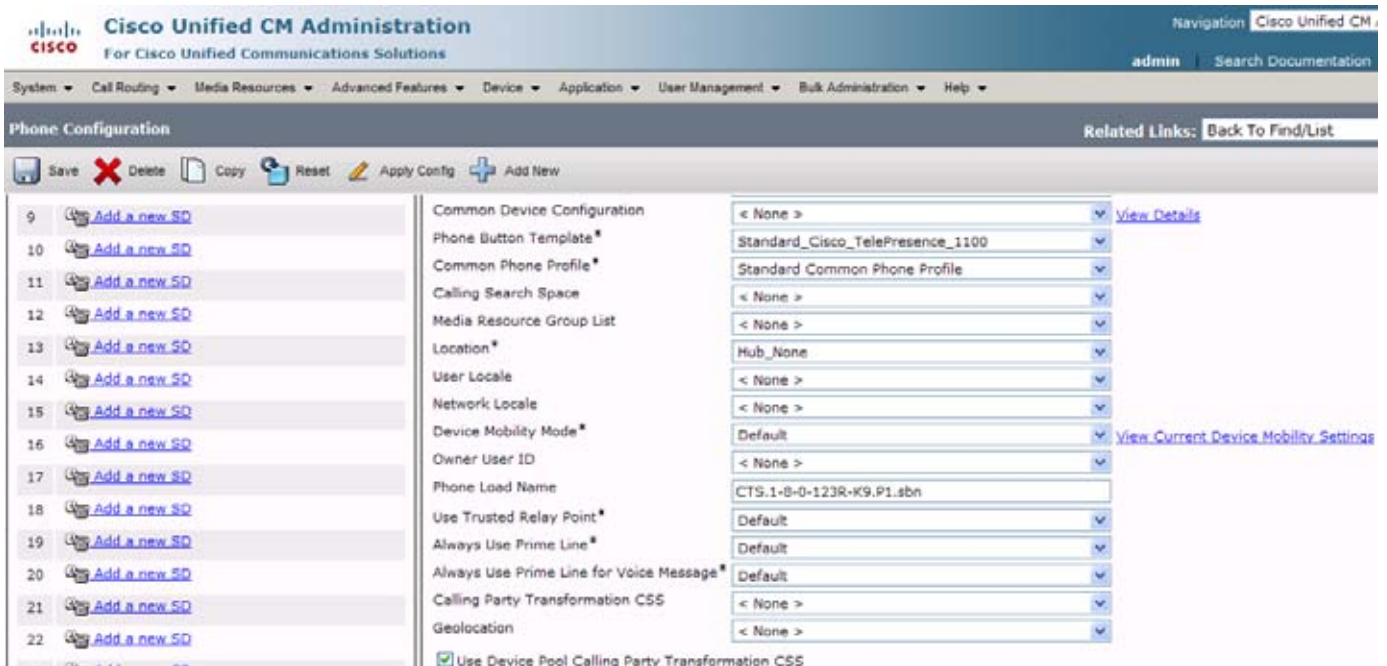
3. デバイスに対応する [Device Name (Line)] 行内のハイパーテキストリンクをクリックします。

ステップ 16 次の手順を実行して、1.8.0 コーデック ファイルイメージをシステムに適用します。

- システムで図 3-1 に示されているコーデックを使用する場合は、.sbn のファイルタイプを追加します。

図 3-17 の例では、管理者は指定したすべてのシステムに対してデフォルトのコーデック ファイルイメージ CTS.1-8-0-123R-K9.P1.sbn を指定しています。元の COP ファイル名は cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P1 でした。

図 3-17 特定のシステムに対する .sbn ファイルイメージの指定



- システムが図 3-2 に示されているコーデックを使用する場合は、ファイルタイプ .SPA を追加します。
- 図 3-18 の例では、管理者はコーデック ファイルイメージ CTS.1-8-0-123R-K9.P2.SPA を指定しています。元の COP ファイル名は cmterm-CTS.1-8-0-123R-K9.P2 でした。

図 3-18 特定のシステムに対する .SPA ファイル イメージの指定



- [Save] をクリックします。
- [Apply Config] をクリックして、設定をこのデバイスに適用します。

コーデックがシャットダウンし、.SPA コーデック ファイルをブート ファイルとして適用した後、リブートします。

ステップ 17 次の手順を実行して、COP（ロード）ファイルをコーデックに適用します。これにより、CTT 12 が CTT 12 ファイルをインストールできるようになります。

- この項のステップ 13 からステップ 16 までを、次の変更を行いながら再実行します。
- [Load Information] フィールド（指定されたタイプのすべてのデバイスの場合）または [Phone Load Name] フィールド（1 台のデバイスの場合）に、COP ファイルの名前をファイルタイプをすべて省略して入力します。
 図 3-15 および図 3-18 の例では、ファイル名を CTS.1-8-0-123R-K9.P2.SPA から CTS.1-8-0-123R-K9.P2 に変更します。図 3-14 および図 3-17 の例では、ファイル名を CTS.1-8-0-123R-K9.P1.sbn から CTS.1-8-0-123R-K9.P1 に変更します。
- [Save] をクリックします。
- [Apply Config] をクリックします。

ステップ 18 「Cisco TelePresence Touch 12 のシステムへの接続」(P.3-21) の説明に従って、CTT 12 をシステムに接続します。

Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン 1.7.4 以上 を実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップ グレード

Unified CM に COP ファイルをロードし、CTS ソフトウェア バージョン 1.7.4 以上を実行しているシステムのコーデックおよび CTT 12 ソフトウェアをアップグレードするには、次の手順を実行します。



(注) ソフトウェア アップグレード手順を完了するまで、CTT 12 をシステムに物理的に接続しないでください。

ステップ 1 COP ファイルを Unified CM からアクセス可能なセキュア ファイル転送プロトコル (SFTP) サーバにコピーします。

ステップ 2 Unified CM の管理 GUI にログインします。

ステップ 3 GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified OS Administration] を選択します。

[Cisco Unified Operating System Administration] 画面が表示されます。



(注) ユーザ ID とパスワードを入力するよう求められた場合は入力します。

ステップ 4 [Software Upgrades] > [Install/Upgrade] の順に選択します。

図 3-19 [Cisco Unified Operating System Administration] 画面



ステップ 5 [Software Location] 領域で、各フィールドに次の情報を指定します。

- [Source] ドロップダウン リストで、[Remote Filesystem] を選択します。
- [Directory] フィールドと [Server] フィールドに、SFTP サーバ上の COP ファイルの場所を入力します。
- [User Name] フィールドと [User Password] フィールドに、SFTP サーバにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
- [Transfer Protocol] ドロップダウン リストで、[SFTP] を選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

図 3-20 SFTP サーバとファイルの場所の指定

Cisco Unified Operating System Administration
For Cisco Unified Communications Solutions

Show Settings Security Software Upgrades Services Help

Software Installation/Upgrade

Cancel Next

Status
Status: Ready

Software Location

Source* Remote Filesystem

Directory* /home/users/defaultuser/sftpdirectory

Server* 10.1.1.1

User Name* username

User Password*

Transfer Protocol* SFTP

SMTP Server

Email Destination

Cancel Next

* - indicates required item.

ステップ 7 [Next] をクリックします。

Unified CM が SFTP サーバにアクセスします。[Software Location] 領域に、指定したディレクトリ内で Unified CM が見つけた COP ファイルの一覧が示されます。

ステップ 8 [Options/Upgrades] ドロップダウン リスト内の使用可能なファイル名から、インストールする COP ファイルを選択します。

図 3-21 COP ファイルのインストール後に使用されるファイルの指定

Cisco Unified Operating System Administration
For Cisco Unified Communications Solutions

Show Settings Security Software Upgrades Services Help

Software Installation/Upgrade

Cancel Next

Status
Status: Ready

Software Location

Options/Upgrades* cmterm-CTS_Main-1605D-K9_F1.cop.sgn

cmterm-CTS_Main-1605D-K9_F1.cop.sgn

cmterm-CTS_Main-1605D-K9_F1.cop.sgn

ステップ 9 [Next] をクリックします。

Unified CM GUI に、インストールされている COP ファイルが示されます。

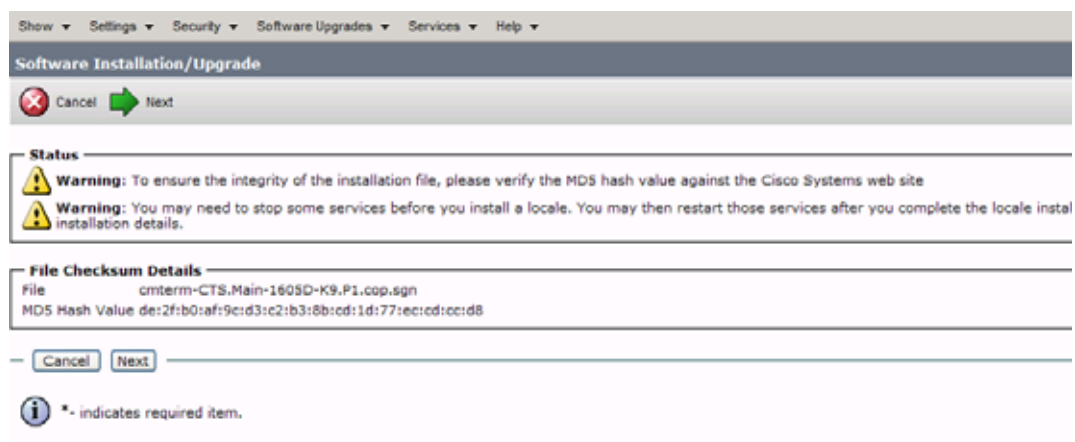
図 3-22 COP ファイルのインストール



ステップ 10 インストールが完了したら、次の手順を実行してファイルの妥当性を確認します。

- [File Checksum Details] 領域の情報をメモしておきます。この値は図 3-23 で、丸で囲まれています。
- SFTP サーバにログインし、次のコマンドを入力します。
- `md5sum filename.cop.sgn`
ここで、
filename は SFTP サーバ上の COP ファイルのファイル名です。
- `md5sum` コマンドの結果として表示されるチェックサム値をメモしておきます。
- この領域に表示される [MD5 Hash Value] とサーバ上の COP ファイル内にある MD5 チェックサム値を比較し、これらが一致するかチェックしてこのファイルが壊れていないことを確認します。
- 値が一致する場合は、次の手順に進みます。値が一致しない場合は、ファイルのインストールを再試行します。

図 3-23 [File Checksum Details] 領域

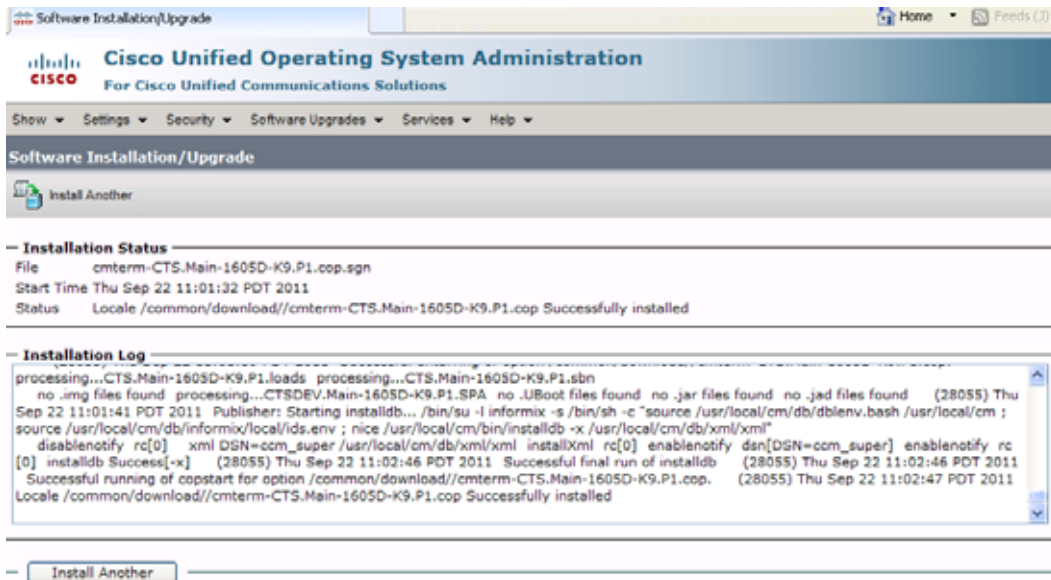


ステップ 11 [Next] をクリックしてインストールを開始します。

インストール ログにインストールの進行状況が表示されます。

.loads、コーデック、および CTT 12 ファイルが抽出された後、インターフェイスによって [Installation Status] 領域に [Complete] ステータスが表示されます。

図 3-24 [Installation Status] 領域



ステップ 12 GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified Serviceability] を選択し、[Go] をクリックします。

[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウが表示されます。

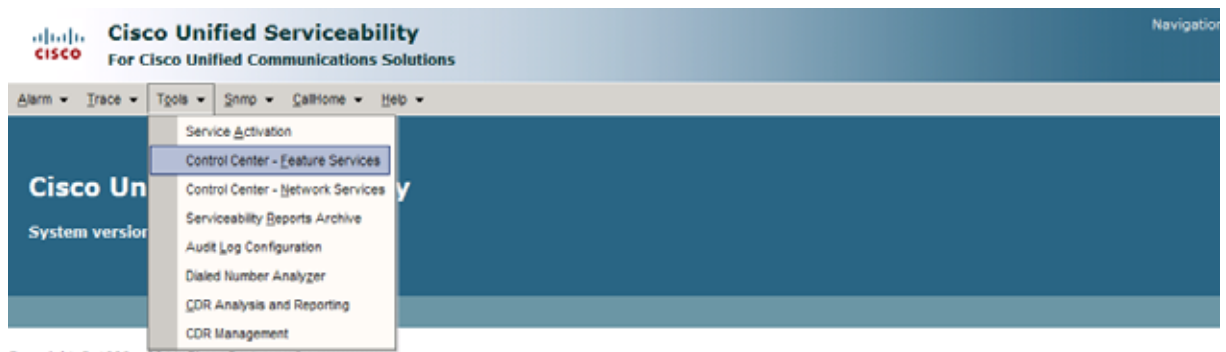


(注) ユーザ ID とパスワードを入力するよう求められた場合は入力します。

ステップ 13 次の手順を実行して、TFTP サーバを再起動します。

a. [Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

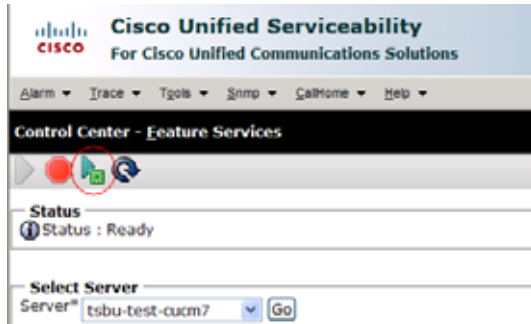
図 3-25 [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウ



b. 表示されるドロップダウン リストから該当する TFTP サーバを選択し、[Go] をクリックします。

- c. [CM Services] 領域で、[Cisco Tftp] オプション ボタンをクリックします。
- d. [Restart] ボタン (ページの一番下にある [Restart] ボタンか、または [図 3-26](#) の赤い丸で囲んだボタンのどちらか) をクリックします。

図 3-26 [Feature Services] ページ内の [Restart] ボタン



ステップ 14 GUI の右上にある [Navigation] ドロップダウン リストから、[Cisco Unified CM Administration] を選択し、[Go] をクリックします。

[Cisco Unified CM Administration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 指定したタイプのすべてのデバイスにこのソフトウェアを適用するには、次の手順を実行します。

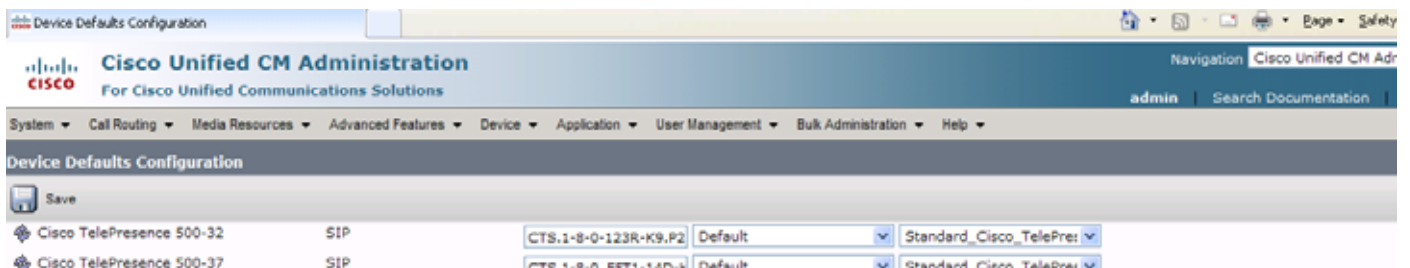


(注) このソフトウェアを (デフォルトとして適用するのではなく) デバイスごとにロードするには、[ステップ 16](#) に進みます。

- a. [Device] > [Device Settings] > [Device Defaults] の順に選択します。
- b. デフォルトのコーデック イメージを適用するシステムを見つけます。
- c. 次の手順を実行して、1.8.0 コーデック イメージ ファイルを、指定したタイプのすべてのシステムに対するデフォルトのイメージ ファイルとして適用します。
 1. [Load Information] フィールドに COP ファイルの名前を入力します。ファイル名の前の cmterm- は入力しません。

[図 3-27](#) の例では、管理者はすべての Cisco TelePresence 500-32 システムに対してデフォルトのコーデック ファイル イメージ CTS.1-8-0-123R-K9.P2 を指定しています。

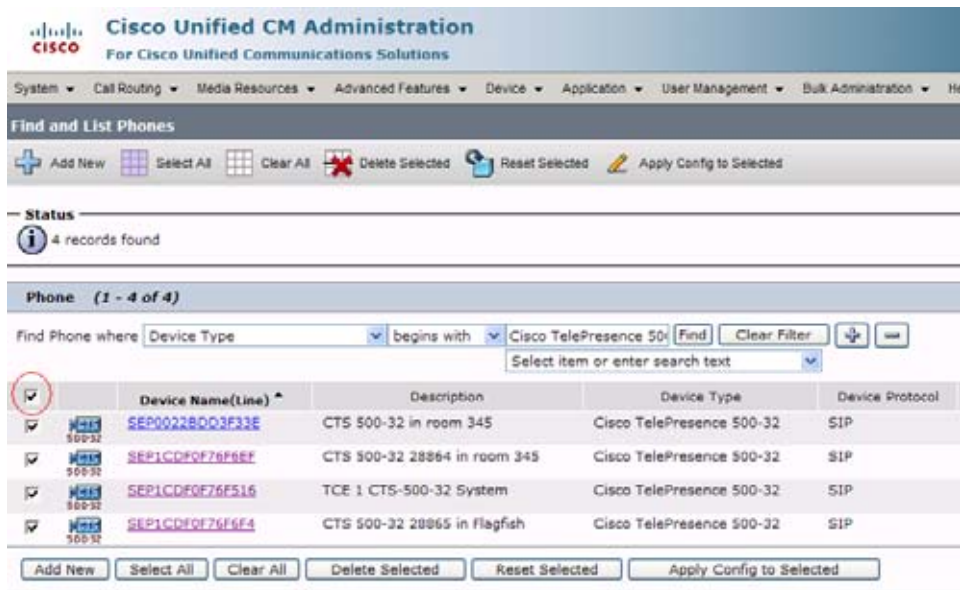
図 3-27 指定されたタイプのすべてのシステムに対するデフォルトのコーデック ファイル イメージの指定



- 2. [Save] をクリックして変更を保存します。
- d. [Device] > [Phone] の順に選択します。

- e. 次の手順を実行して、新しいコーデック イメージ ファイルを適用するデバイス タイプを検索してアクセスします。
1. [Find Phone Where] 領域のドロップダウン リストで、[Device Type] および [begins with] を選択します。
 2. エンドポイントのデバイス タイプ（たとえば、[Cisco TelePresence 500-32]）を入力します。
 3. [Find] をクリックします。
- 結果の画面の例は図 3-28 のとおりです。

図 3-28 デバイス タイプの検索後の結果の画面



4. ページの左側にあるチェックボックスを選択して、すべてのデバイスを選択します。
図 3-28 では、このチェックボックスが赤い丸で囲まれています。
5. 選択したすべてのデバイスにこの設定を適用するには、[Apply Config to Selected] をクリックします。
- f. ステップ 17 に進みます。

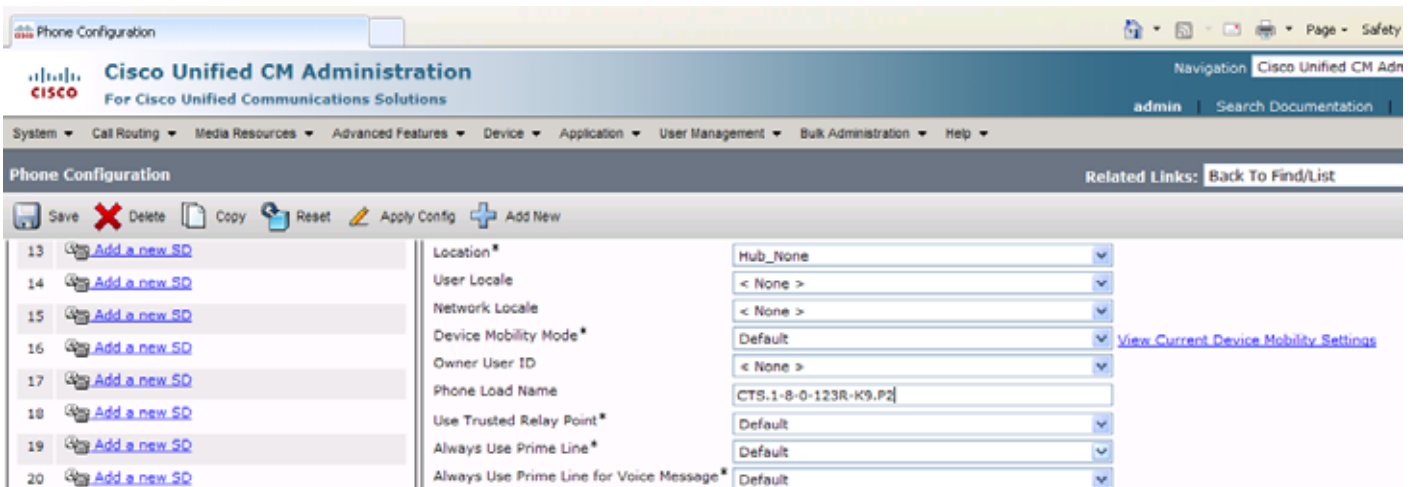
ステップ 16 このソフトウェアを特定のデバイスに対してロードするには、次の手順を実行します。

- a. [Device] > [Phone] の順に選択します。
- b. 次の手順を実行して、デバイスを検索してアクセスします。
 1. ドロップダウンの選択肢を使用して有効な検索条件を指定するか、またはフィールドを空白のままにしてすべてのデバイスを検索します。
 2. [Find] をクリックします。
 3. デバイスに対応する [Device Name (Line)] 行内のハイパーテキスト リンクをクリックします。

ステップ 17 次の手順を実行して、1.8.0 コーデック ファイル イメージをシステムに適用します。

- a. [Phone Load Name] フィールドに COP ファイルの名前を入力します。ファイル名の前の cmterm- は入力しません。
図 3-29 の例では、管理者は CTS.1-8-0-123R-K9.P2 のファイル名を指定しています。

図 3-29 [Phone Load Name] フィールド



- b. [Save] をクリックします。
- c. [Apply Config] をクリックします。

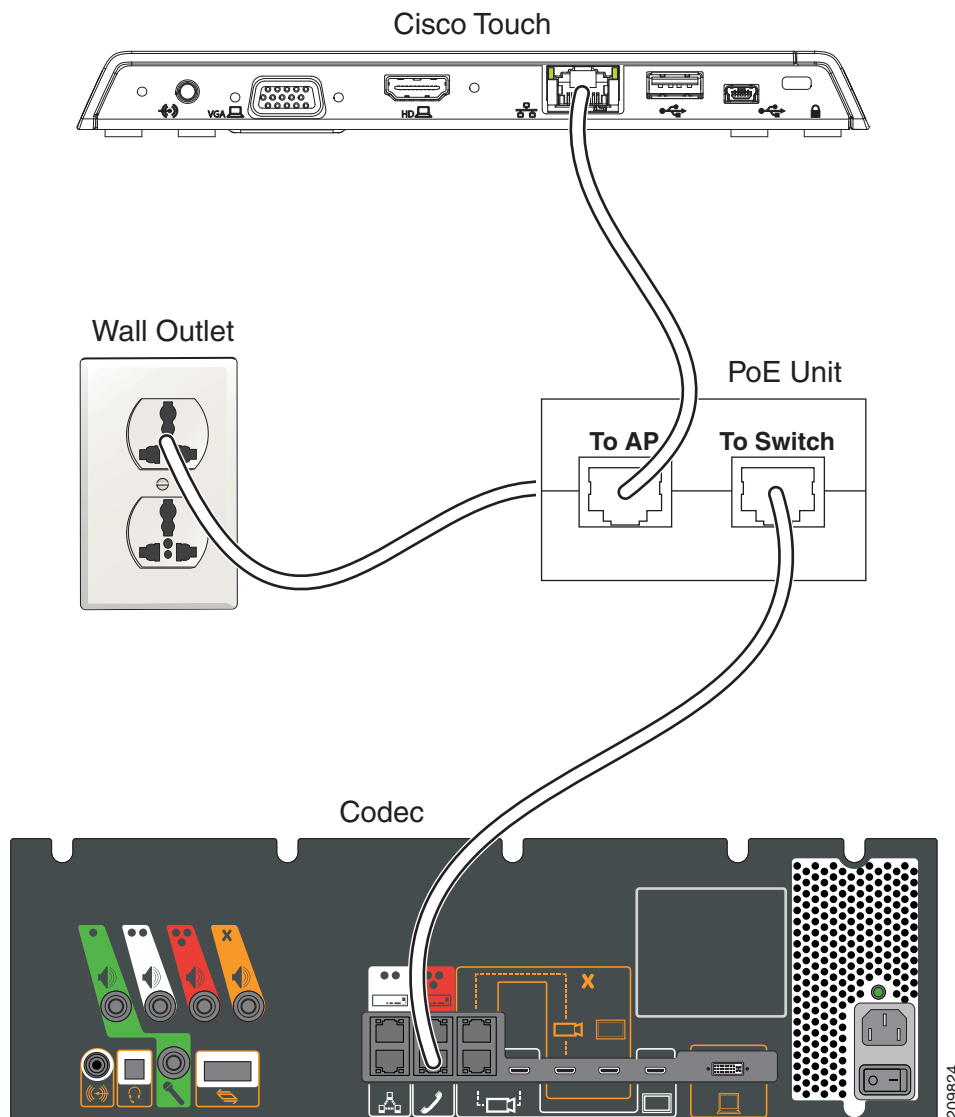
ステップ 18 「Cisco TelePresence Touch 12 のシステムへの接続」(P.3-21) の説明に従って、CTT 12 をシステムに接続します。

Cisco TelePresence Touch 12 のシステムへの接続

図 3-1 に示されているコーデックを使用するシステムでは、次の作業を実行して CTT 12 デバイスを接続します。

- ステップ 1** CTT 12 の背面にある「Network Uplink Input RJ-45」ポートと、PoE ユニットの「To AP」とラベル表示されている差し込み口を 1 本のイーサネット ケーブルで接続します。
- ステップ 2** コーデックの「To Phone」差し込み口と、PoE ユニットの「To Switch」とラベル表示されている差し込み口を 1 本のイーサネット ケーブルで接続します。
- ステップ 3** 電源コードの一端を PoE ユニットに接続し、反対側の端を壁のコンセントに差し込みます。

図 3-30 Cisco TelePresence Touch の Power over Ethernet ユニットとの接続

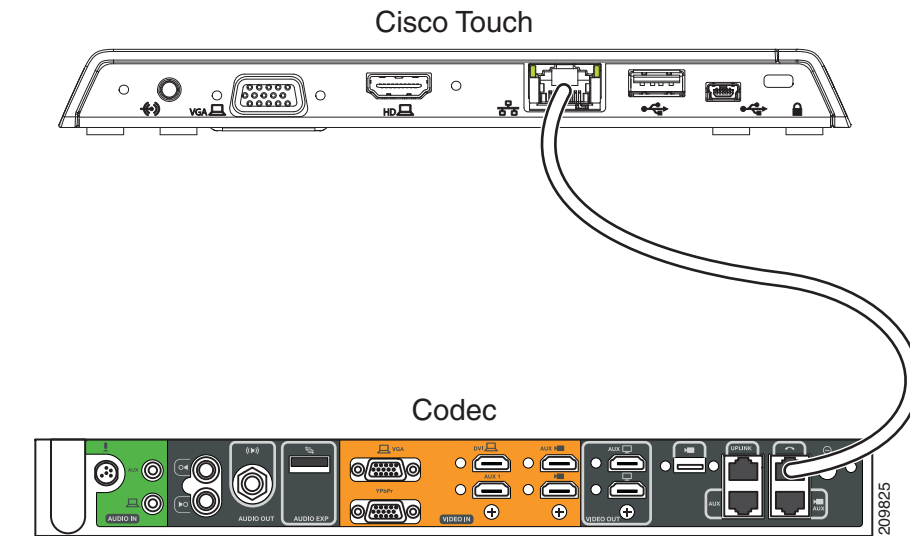


(注) Touch デバイスを接続した後、Touch ディスプレイの左下に丸で囲まれた一連の数字が表示されます。これらの数字は、デバイスの起動状況に従ってチェック マークに変化します。丸で囲まれた数字がチェック マークに変化しなかった場合や、Touch デバイスをコーデックに登録できなかったことを示すメッセージが Touch デバイス上に表示された場合は、Touch デバイスを切り離し、5 分待ってから再接続してください。

図 3-2 に示されているコーデックを使用するシステムでは、次の作業を実行して CTT 12 を接続します。

- ステップ 1** イーサネット ケーブルのもう一方の側をシステム コーデックの「To Phone」差し込み口に接続します。
- ステップ 2** CTT 12 に付属のイーサネット ケーブルの一方の側をデバイスの背面にある「Network Uplink Input RJ-45」ポートに接続します。

図 3-31 Cisco TelePresence Touch の接続



- (注) Touch デバイスを接続した後、Touch ディスプレイの左下に丸で囲まれた一連の数字が表示されます。これらの数字は、デバイスの起動状況に従ってチェック マークに変化します。丸で囲まれた数字がチェック マークに変化しなかった場合や、Touch デバイスをコーデックに登録できなかったことを示すメッセージが Touch デバイス上に表示された場合は、Touch デバイスを切り離し、5 分待ってから再接続してください。

Cisco TelePresence System ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 を実行している CTS-500-32 システムに対する特殊な制限

一部の Cisco TelePresence System 500-32 システムには、Cisco TelePresence System (CTS) ソフトウェア バージョン 1.7.1.1 が事前にロードされています。コーデックの交換が必要な場合、そのコーデックにもバージョン 1.7.1.1 のソフトウェアが事前にロードされている可能性があります。この場合は、ただちに最新バージョンの CTS ソフトウェアをロードすることができず、まず 1.7.4 への中間アップグレードを実行する必要があります。これを行うには、「[バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード](#)」(P.3-5) の手順を次のように変更します。

- ステップ 1** ステップ 1 からステップ 16 までを、1.8.0 ファイルと記載されている箇所を 1.7.4 ファイルに読み替えて実行します。
- ステップ 2** ステップ 7 とステップ 8 では、1.7.4 ファイルとバージョン 1.8.0 以上のファイルの両方をダウンロードします。



- (注) この手順では、システムで実行するファイルと 1.7.4 ファイルの 2 つのファイルが必要です。

- ステップ 3** それ以上は変更せずにステップ 17 に進みます。



CHAPTER 4

ソフトウェア インストールの問題のトラブルシューティング

次の章では、ソフトウェア アップグレードのトラブルシューティング手順について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「デバイスのログ ファイルの取得」(P.4-1)
- 「インストールおよびアップグレードの問題のトラブルシューティング」(P.4-1)



注意

本製品で使用されるディスプレイには水銀が含まれています。各地域、都道府県、政府の法律に従って廃棄してください。

デバイスのログ ファイルの取得

ソフトウェアが正常にインストールまたはアップグレードされない場合は、アップグレードしようとしている Cisco TelePresence システムのログ ファイルを取得してトラブルシューティングを開始することをお勧めします。これを行うには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** システムの IP アドレスを入力して、アップグレードしようとしている Cisco TelePresence システムにログインします。
- ステップ 2** デバイスのユーザ名とパスワードを入力します。
デフォルトでは、ユーザ名は **admin**、パスワードは **cisco** です。
- ステップ 3** [Troubleshooting] > [Log Files] の順に選択します。
- ステップ 4** [Sysop Log] タブで、ログ ファイルを確認します。

インストールおよびアップグレードの問題のトラブルシューティング

インストールの問題のほとんどは、ソフトウェア アップグレードプロセス中に発生する問題に関係しています。「デバイスのログ ファイルの取得」(P.4-1) に示されている手順でログ ファイルを確認し、問題のトラブルシューティングを試みます。

問題の解決策を見つけるために、次の手順が役立つことがあります。

- 1.7.4 よりも前のイメージから、直接 1.8.0 以降のイメージにアップグレードしようとした。
1.7.4 よりも前のイメージからアップグレードするには、「バージョン 1.7.4 よりも前の Cisco TelePresence ソフトウェアを実行しているシステムの CTS ソフトウェアのアップグレード (P.3-5)」を参照してください。
- Sysop ログ ファイル内に、または Touch デバイスの画面で「file not found」や「unable to retrieve boot image」のようなエラーが検出された場合は、次の問題が起きていないか確認してください。
 - ファイルが Unified CM サーバ上にまだロードされていません。
 - ファイルはロードされていますが、TFTP サーバが再起動されていません。
 - Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) の管理 GUI で正しいファイル名を指定しませんでした。
 - ファイルは Unified CM サーバ上に存在していましたが、削除されています。Touch デバイスは、コーデック経由で Unified CM サーバから直接イメージを取得します。第 1 章「Cisco TelePresence System の COP ファイルとロード ファイルについて」の図 1-1 を参照してください。
 - システムで無効なファイル名を指定しました。一般に、CTS-500-37、CTS-1000、CTS-1100、CTS-1300-65、CTS-3010、および CTS-3210 が P1 で終わる名前を持つ COP ファイルを使用するのに対して、CTS-500-32 と CTS-1300-47 は P2 で終わる名前を持つ COP ファイルを使用します。
 - 1.7.4 よりも前のリリースの場合：ファイル名の後にファイル タイプを指定しなかったか、または無効なファイル タイプを指定しました。CTS-500-37、CTS-1000、CTS-1100、CTS-1300-65、CTS-3010、および CTS-3210 が .sbn のファイル拡張子を使用するのに対して、CTS-500-32 と CTS-1300-47 は .SPA のファイル拡張子を使用します。
 - 1.7.4 以降のリリースの場合：ファイル名を指定するときに、ファイル名とともにファイル タイプ（拡張子）を入力しました。Unified CM GUI では、拡張子を付けずにファイル名を入力してください。
 - Unified CM で、[Software Upgrades] > [TFTP File Management] > [Upload File] の選択肢を使用してファイルを直接アップロードしました。この方法はサポートされていません。
- Sysop ログ内に、または Touch デバイスの画面で「boot image corrupted」メッセージが検出された場合は、次の問題を確認してください。
 - この状態は、Unified CM サーバ上の COP ファイルが壊れていることを示します。Unified CM サーバ上に COP ファイルをリロードするか、またはサーバ上に別のファイルをアップロードしてください。

その他のトラブルシューティング手順については、このマニュアルのインストールとアップグレードのセクションを見直し、どの手順も省略しなかったことを確認してください。